

それゆけ！ としょかんだより



2009年2月

第23号

発行所

高野山大学図書館

閲覧室



雪も降らなくなってきました。そろそろ冬も終わるみたいです。春を迎える準備があちらこちらで始まっているみたいです。

ベスト20がリニューアルしました

毎月おなじみの「ベスト20」が2月から変わりました。今までは総合ランキングだけでしたが、今回から総合ベスト10になり、ジャンル別のランキングを新たに開架しました。

ジャンル別のランキングは2つのジャンルが開架されますが月によって違うので何が開架されるかはお楽しみ。

ミニ企画コーナー

今回のミニ企画コーナーは「高野惣山之絵図」(複製)です。前号で紹介した「山田真美さん」のコーナーの横に展示しています。

江戸時代の高野山の絵図の中では最古のもので、正保2年(1645)に描かれたものです。

特徴は高野山内の寺院だけではなく、周辺の高野山の寺領も描かれています。



この隣には今の高野山内の地図(高野町役場発行)を展示しています。比べてみても面白いかも？

図書館開館予定日の変更

図書館の3月の開館日ですが、サーバーのメンテナンスのため変更がありましたのでお知らせいたします。

開館時間 3月4日(水) 9:00~12:00

3月5日(木) 13:00~17:00

に変更になりましたのでご注意ください。

全国書店売上
BEST10!

本やタウン
毎月1日のラン
キングです。

2月

- 『「脳にいいこと」だけをやりなさい!』
- 『読めそうで読めない間違いやすい漢字』
- 『かいけつゾロリ イシシ・ノシシ大ピンチ!』
- 『O型自分の説明書』
- 『悩む力』
- 『新装版 天地人(上)』
『新装版 天地人(中)』
『新装版 天地人(下)』
- 『A型自分の説明書』
- 『B型自分の説明書』
- 『夢をかなえるゾウ』
- 『毎日かあさん(5)』

2009年2月の開館予定表

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

2009年3月の開館予定表

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | 1 | 2 | 3 | 4 |

| | | |
|--|------------|-------------|
| | 9:00-18:00 | 13:00-18:00 |
| | 9:00-17:00 | 13:00-17:00 |
| | 9:00-12:00 | 閉館 |
| | 9:30-16:30 | 13:00-16:30 |

切り取り

今月のおすすめ図書！

※今月は中村 本然先生のおすすめです。

久松真一 著『茶道の哲学』(講談社学術文庫)請求記号:670/サ/7

日本の文化を知りたいと思う人が、学び始めるものに茶道がある。茶道は、非日常へといざなう露地・庭の空間、凛とした茶室の趣き、茶碗や棗・袋物にみる伝統の技巧、洗練された作法や立ち居振る舞い、いずれも一期一会の出会いに多彩な美を意識する総合的な芸術といえよう。南坊宗啓の著わした『南方録』には、茶道を大成した千利休のお茶に関する深い味わいととも、その道を究めた心境が綴られている。

久松真一は西田幾多郎のすすめにより、京都妙心寺で臨済禅の修行にうちこむかたわら茶道三昧の学究生活を送っている。抑も実父が茶人であったらしく、幼少の頃よりその影響を受けていたことが知られている。

本書は、茶道をこよなく愛し、茶道とも関わりをもつ禅の奥義にも到達した著者が、日本文化を象徴する茶道の本質について透徹した視点を示した著である。茶道や日本文化に興味ある人はいうまでもなく、宗教・哲学に関心のある人にも楽しめる書物といえよう。

※『茶道の哲学』講談社学術文庫・・・本書は『茶道の哲学 久松真一著作集4』の主要な部分を抽出し構成し直したものである。

今月の・・・ぴか！



おまじない

「ちちんぷいぷい」ってきいたことありませんか



呪文には様々なものが存在するが、意味を知らずに唱えていることが多い。しかし意味を調べていくと面白いものがある。

群馬県では魚の骨を抜く呪文として「あぶらケンソワカ」と唱え、栃木県では蜂よけの呪文として「あぶらけんちん」江戸随筆の『閑田次筆』には「あぶら桶そはか」と唱え病気を治す老婆の話がある。これらの呪文は大日如来を意味する真言アピラウンケンが変化したものだ。

音だけを聞いてこのような誤解をしてしまうのだろう。本来の意味を知らずに唱えても効果がないと思われがちだが、そうではない。

『十六鍾鳴』によると「金剛経」の「おんむしよじゅう 心無所住、にしようごしん 而生其心」の部分を「おおむぎさんしやうにしようごしやう 大麦三升二升五升」と間違えて覚えている者がいた。彼は靈験があったのだが、あるとき間違いを指摘され正しく読もうとして以降、靈験がなくなってしまったのだという。この話を聞くと呪文には意味を知っているかどうか関係ないのだとよく分かる。

呪文を唱えるポイントは、ただ“効く”と信じて唱えることだそうです。

※参考にした資料は、

『呪いの博物誌』（学習研究社、2005.8）です。

興味をお持ちの方は、どうぞご覧下さい。



(編集後記)

暦の上では春となっていますが、まだまだ寒いですね。春の準備期間といったところでしょうか。 (吉)

発行所

〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385 高野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835 / Fax:0736-56-5590 /

E-mail:service-lib@koyasan-u.ac.jp